

運 営 管 理

2025年合格目標 TAC教材

1次完成答練① 第3問

製品開発・製品設計に関する記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。 3

- b コンカレントエンジニアリング（CE）は設計や生産、販売といった工程の同時進行化を図る取り組みであり、設計期間の短縮や設計コストの低減、製品品質の向上の効果を生む。（○）

1次養成答練 第12問

QC 7つ道具と新 QC 7つ道具に関する記述として、最も適切なものはどれか。

13

- ア マトリックス図は、2つの対になったデータをXY軸上に表した図である。（×）
イ 特性要因図は、原因と結果、目的と手段などが複雑に絡み合った問題の相互関係を調べる際に使用される。
ウ 散布図は、多くの目的や現象と、多くの手段や要因のそれぞれの対応関係を多元的思考により問題点を整理して行列形式で並べ、相互の関連の程度を整理した図である。
エ バレート図は、縦軸には改善対象となる不適合数や作業時間などをとり、横軸には生産対象物を左から多い順に並べ、棒グラフと累積比率を示す折れ線グラフを描いて視覚化した図である。
オ ヒストグラムは、データの分布状態を表した棒グラフであり、データの分布状態やバラツキの原因が視覚的に表現される。（×）

1次完成答練② 第8問

製品 J1～J5 の2つの工程の加工時間が下表のように与えられたとき、2工程のフローショップにおける製品の投入順序を検討する。すべての製品の加工を完了するまでの時間を最小にする投入順序を検討する。生産開始時間から完了時間までに含まれる第1工程と第2工程の非稼働時間の合計として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。 8

仕事 (ジョブ)	工程作業時間（時間）	
	第1工程	第2工程
J1	4	3
J2	3	4
J3	2	3
J4	5	6
J5	5	4

〔解答群〕

ア 3 イ 4 ウ 5 エ 6 オ 7

令和7年度 中小企業診断士1次試験

本試験 第1問

製品の設計や開発の合理化に関する記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

- a コンカレントエンジニアリングを活用することで、製品開発プロセスの統合化、同時進行化を行い、開発期間を短縮した。（○）

本試験 第5問

以下に示す QC 七つ道具、新 QC 七つ道具の名称と、その特徴に関する記述の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

【名称】

- a マトリックス図法
b ヒストグラム
c 連関図法
d チェックシート

【特徴】

- ① 不良の原因となっている事象の中から対になる要素を見つけ、解決手段の優先順位付けに用いる重みを求めることができる。（a マトリックス図法）
② 問題となる結果とその要因の関係を分析し、問題の因果関係を明らかにすることで、問題の構造を捉えることができる。（c 連関図法）
③ 現場での品質管理に必要なデータを簡単に記録するために使われ、現状を数値化し、客観的な事実をつかむことができる。（d チェックシート）
④ 計量値で表される品質特性の「ずれ」や「ばらつき」を視覚的に表すために使われ、工程の実力をつかむことができる。（b ヒストグラム）

〔解答群〕

- ア a:① b:② c:③ d:④
イ a:① b:④ c:② d:③
ウ a:② b:① c:④ d:③
エ a:③ b:① c:④ d:②
オ a:③ b:④ c:② d:①

本試験 第6問

2台の機械を用いて、第1工程、第2工程の順で作業するフローショップにおいて、各ジョブの作業時間が下表に与えられている。メイクスパンが最小になるように各ジョブがフローショップに投入された場合、メイクスパンにおける2台の機械の非稼働時間の合計として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

	作業時間	
	第1工程	第2工程
ジョブ a	3	4
ジョブ b	4	1
ジョブ c	5	7
ジョブ d	6	2

〔解答群〕

- ア 3
イ 4
ウ 5
エ 6
オ 7

1 次完成答練② 第5問

ある工場でA～Eの5台の機械間の運搬回数を分析した結果、次のフロムツウチャートが得られた。この表から読み取れる内容に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

5

To \ From	A	B	C	D	E
A		15	8	22	
B	10		5	20	
C		3			10
D	2				
E					

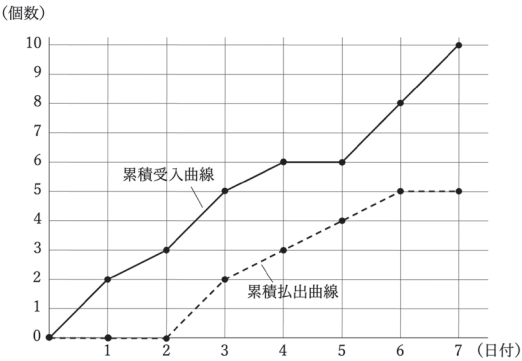
〔解答群〕

- ア 機械間で双方向の運搬が発生するのは2か所である。
- イ 機械Bからすべての機械に品物が移動している。
- ウ 最も運搬頻度が高いのは機械A・D間である。
- エ 他の機械からCへの運搬回数は13回である。

1 次上級答練 第9問

ある生産現場の工程について、1週間の流動数分析を実施した。下図は、この期間内での受入・払出の結果を流動数分析図にまとめたものである。この流動数分析図の分析結果として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

9



〔解答群〕

- ア 2日目の在庫量は、2個である。
- イ 最大仕掛け日数は、4日間である。
- ウ 製品の平均在庫量は、3(個/日)である。
- エ 最大在庫量は、4個である。

本試験 第15問

図1のように、設備が入庫口から出庫口に直線でレイアウトされている機械加工工場における、ものの流れの現状を明らかにするために、1週間当たりの運搬回数を調査した。その結果を図2のフロムツウチャートに示す。

図1 レイアウト

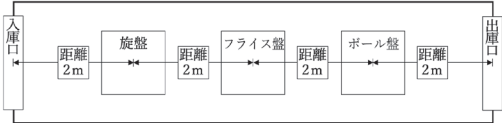


図2 フロムツウチャート

To \ From	入庫口	旋盤	フライス盤	ボール盤	出庫口
入庫口		6	4	20	
旋盤					12
フライス盤		16			4
ボール盤					8
出庫口					

この結果から読み取れる記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

- a 現状のΣDI値(距離と運搬回数の積の総合計)は284である。
- b ものの流れが逆行している運搬回数の合計は54である。
- c 旋盤とフライス盤の場所を入れ替えることによってΣDI値(距離と運搬回数の積の総合計)は12減少する。

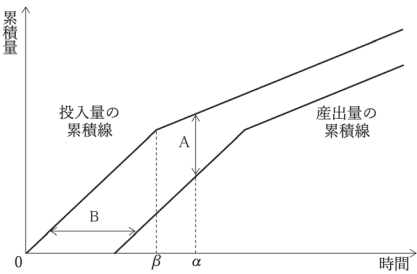
〔解答群〕

- ア a:正 b:正 c:誤
- イ a:正 b:誤 c:正
- ウ a:正 b:誤 c:誤
- エ a:誤 b:正 c:正
- オ a:誤 b:誤 c:正

本試験 第18問

ある単一の製品を生産しているラインにおいて、投入量と産出量に基づいた流動数分析の結果を下図に示す。投入量や産出量の累積線の傾きはそれぞれ、投入や産出のペースに応じて変化している。この生産ラインは先入先出で、投入から産出までの期間は一定である。

この図から読み取ることのできる記述の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



- a Aが示す縦軸方向の間隔は、時点aにおける生産ライン内のものの量を示している。
- b Bが示す横軸方向の間隔は、生産ラインへの投入から産出までの期間を示している。
- c 時点βにおいて投入のペースが変化した後、生産ライン内のものの量が増加している。
- d 投入から産出までの期間を短縮できれば、投入量の累積線と産出量の累積線の縦軸方向の間隔を短くできる。

〔解答群〕

- ア aとb
- イ aとbとc
- ウ aとbとd
- エ bとc
- オ cとd

<div>1 次養成答練 第 18 問</div> <div>わが国のショッピングセンター（SC）の現況について、一般社団法人日本ショッピングセンター協会が公表している「全国の SC 数・概況」（2023 年末時点で営業中の SC）から確認できる記述として、最も適切なものはどれか。<div>19</div></div> <div>エ キーテナント数別 SC 数では 2 核の割合が最も多い。(×)</div> <div>1 次養成答練 第 18 問</div> <div>わが国のショッピングセンター（SC）の現況（2023 年末時点で営業中の SC）について、一般社団法人日本ショッピングセンター協会が公表している『SC 白書 2024（デジタル版）』から確認できる記述として、最も適切なものはどれか。<div>26</div></div> <div>イ 業種別テナント数は、「飲食店」よりも「物販店」の方が多い。</div>	<div>本試験 第 22 問</div> <div>国内のショッピングセンター（SC）の現況（2023 年末時点で営業中の SC）について、一般社団法人日本ショッピングセンター協会が公表している『SC 白書 2024（デジタル版）』から確認できる記述として、最も適切なものはどれか。</div> <div>ア キーテナント別 SC 数では、2 核の SC 数が最も多い。(×)</div> <div>イ 業種別テナント数では、物販のテナント数の割合が最も低い。(×)</div> <div>ウ 総 SC 数は 2019 年以降、毎年、前年比で減少している。(○)</div> <div>エ 店舗面積別 SC 数では、店舗面積が 3,000㎡未満の SC 数が最も多い。(×)</div>
<div>1 次完成答練第 18 問</div> <div>A 市と B 市の間に位置する C 市について分析を行いたい。A 市から C 市までの距離は 20km、B 市から C 市までの距離は 10km である。 下記の条件が与えられたとき、ライリーの法則を用いて、A 市と B 市が C 市から吸引する販売額の割合として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。<div>18</div></div> <div><div><div>A市</div><div>C市</div><div>B市</div></div><div>・人口 12万人</div><div>・人口 9万人</div></div> <div>〔解答群〕</div> <div>ア A:B=1:2</div> <div>イ A:B=1:3</div> <div>ウ A:B=2:3</div> <div>エ A:B=3:1</div> <div>オ A:B=3:2</div>	<div>本試験 第 24 問</div> <div>A 市と B 市の人口比が A:B=3:8 である場合、それぞれの市がその中間にある X 町からどの程度の購買力を吸引できるか、ライリー・モデルを用いて計算した。計算した結果、A 市と B 市の吸引力の比が A:B=3:2 のとき、X 町から A 市までの距離 XA と X 町から B 市までの距離 XB の比として、最も適切なものはどれか。</div> <div>ア XA:XB=1:4</div> <div>イ XA:XB=1:2 (○)</div> <div>ウ XA:XB=1:1</div> <div>エ XA:XB=2:1</div> <div>オ XA:XB=4:1</div>
<div>1 次上級答練 第 18 問</div> <div>店舗における売り場作りに関する記述として、最も適切なものはどれか。<div>19</div></div> <div>ウ パワーカテゴリーとは、客動線のコントロールのキーとなるカテゴリーのことで、店内の奥に配置することで客単価の向上が期待できる。(○)</div> <div>エ フェイスの配分は売上を基準に検討し、売上の小さい商品のフェイス数を増やすことが基本である。</div>	<div>本試験 第 29 問</div> <div>スーパーマーケットなどのセルフサービスの店舗の売場づくりに関する記述として、最も適切なものはどれか。</div> <div>エ 重点商品の販売量を増やすために、商品棚の重点商品のフェイス数を増やす。(○)</div> <div>オ 非計画購買を増やすために、パワーカテゴリーをフロアレイアウトの 1 箇所に集中して陳列する。(×)</div>
<div>1 次養成答練 第 22 問</div> <div>小売店舗における在庫管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。<div>24</div></div> <div>ア 定期発注方式を採用している場合、発注間隔のみを変更して長くと、発注量を減らすことができる。(×)</div> <div>オ 定量発注方式を採用している場合、発注量のみを変更して増やすと、発注点に基づく発注間隔は短くなる。(×)</div> <div>1 次上級答練 第 8 問</div> <div>発注方式における発注点あるいは発注量の決定に関する記述として、最も適切なものはどれか。<div>8</div></div> <div>ア ダブルビン方式における発注量として、発注時点の総在庫量の半分の量を用いた。(×)</div> <div>1 次上級答練 第 22 問</div> <div>最寄品を主に取り扱う小売店舗における在庫管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。<div>23</div></div> <div>ウ 定期発注方式を採用した場合、販売量を一定とすると、1 回当たりの発注量は発注から納品までの調達期間が長くなるほど多くなる。(○)</div>	<div>本試験 第 32 問</div> <div>小売店舗における在庫管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。</div> <div>ア 安全在庫を設定する場合、欠品のリスクを小さくするためには、安全係数を低く設定する必要がある。</div> <div>イ ダブルビン方式を採用している場合、発注量は補充点の 2 倍に相当する量である。</div> <div>ウ 定期発注方式を採用している場合、発注から納品までの調達期間を長くと、発注のための需要予測量は多くなる。(○)</div> <div>エ 定期発注方式を採用している場合、発注間隔を長くと、発注 1 回当たりの発注量は少なくなる。</div> <div>オ 定量発注方式を採用している場合、発注点に基づいて発注すれば、販売量の増減にかかわらず、発注間隔は一定になる。</div>

1 次完成答練② 第 29 問

ある小売店の一定期間の ID-POS データから以下のデータが得られた。これらを用いてマーケットバスケット分析を行うこととした。このとき、以下の設問に答えよ。

【抽出したデータ】

全顧客数	1,000人
商品Xのみを購入した顧客数	150人
商品Yのみを購入した顧客数	175人
商品Xおよび商品Yを購入した顧客数	75人

(設問 1)

商品 X と商品 Y の購買パターンについての評価指標に関する記述として、最も適切なものはどれか。

ア 商品 X を購買したパターンの支持度 (サポート) は、0.225 である。

イ 商品 Y を購買したパターンの支持度 (サポート) は、0.175 である。

ウ 商品 X からみた商品 Y の信頼度 (コンフィデンス) は、 $\frac{1}{2}$ である。

エ 商品 Y からみた商品 X の信頼度 (コンフィデンス) は、 $\frac{1}{3}$ である。

オ 商品 X と商品 Y を併買ったパターンの支持度 (サポート) は、0.15 である。

(設問 2)

商品 X と商品 Y を併買った購買パターンのリフト値として、最も適切なものはどれか。

ア $\frac{2}{7}$ イ $\frac{1}{3}$ ウ $\frac{4}{5}$ エ $\frac{4}{3}$ オ $\frac{20}{7}$

本試験 第 40 問

あるスーパーマーケットで、POS データからクロスセルの対象商品を見つける目的でアソシエーション分析を行う。対象とした 3 つの商品 A、B、C について、対象期間の発行レシート枚数を整理したところ、次の表のような結果となった。この結果を用いて、下記の設問に答えよ。

レシートで確認された対象商品	該当するレシートの枚数
Aのみ	400
Bのみ	200
Cのみ	600
A、Bのみ	1200
A、Cのみ	800
B、Cのみ	1000
A、B、Cすべて	600
A、B、Cのいずれも購入無し	1200
合計	6000

(設問 1)

商品 A からみた商品 B の信頼度 (コンフィデンス) として、最も適切なものはどれか。

ア $\frac{1}{9}$

イ $\frac{1}{6}$

ウ $\frac{7}{15}$

エ $\frac{8}{15}$

オ $\frac{3}{5}$

(設問 2)

商品 A と商品 B を併買った購買パターンのリフト値として、最も適切なものはどれか。

ア $\frac{3}{5}$

イ $\frac{5}{6}$

ウ 1

エ $\frac{16}{15}$

オ $\frac{6}{5}$